

次号予告

- 特集 1. 整形外科の疾患から
腰痛症の鑑別診断と運動療法 日医大・整外 石 田 肇
腰痛症の予防 老人研病院 岩 崎 富 子
頸椎後縦靱帯骨化症について 大阪大・整外 大 田 寛
- 特集 2. 理学療法士・作業療法士と法
理学療法士・作業療法士法の成立経過 国療東京病院 砂 原 茂 一
てい談：理学療法士・作業療法士と法的責任
..... 東大・リハ部 司会・上田 敏
理学療法士・作業療法士と開業 欧米の事情
..... 都養育院・リハ部 荻 島 秀 男
理学療法士の開業問題について考える
..... 都養育院・理学療法科 松 村 秩
作業療法士の開業問題について考える 府中リハ学院 鈴木 明 子
と び ら ゴールは決してあせらずに 東大・リハ部 菊 地 延 子
講 座 運動学シリーズVI. 足部と足関節の運動学 (2)
..... 板橋ナーシングホーム 丸 山 仁 司
メディカルプログレス
障害者心理 (2) 国立身障センター 永 井 昌 夫
リハビリテーション機器 (2)
電動車椅子の規格化 都補装具研 加倉井 周 一
- Q and A 「慶応病院のリハセンターで新しいPT 記録
の方法を採用されたようですが」 A 藤沢 しげ子・Q 福屋靖子
- 本の紹介 H. Houston Meritt 編著, 椿 忠雄監訳
「メリット神経病学」 甲州温泉病院 藤 本 欽 也
秋元波留夫著「失行症」 都老人研究所 鎌 倉 矩 子

編集後記

今回は、訪問指導や通園施設での理学療法士と作業療法士の体験を特集にした。病院からの延長線としてアフターケアをしている場合や新しくチームを組んで実際に在宅患者へサービスする場合も、また通園施設で働らくのもみんな「地域での医療サービス」という形に入れられる。数知れぬ受療対象者が、こちらの活動開始を待っている時代ともいえる。

高田氏は、体制づくりの重要性を指摘し、石井氏は、新しい姿をもたなければならない事態に直面し、率直に模索する気持を表わしている。大峯氏・他による家屋改造の写真もよいヒントとなったし、大村氏も新しい形の接し方を記している。宮崎氏・他は、実験的とも呼べる方法で活動する中

から、協力体制づくりで幅広く、着実な仕事をし、報告してある。

原氏による英国のOT雑誌と、光岡氏による米国のOT雑誌のまとめも、両国を比較しながらの日本への影響力を考えてみると面白いであろう。かつては、ドイツをお手本とし、現在は米国からの影響を受けているので、2雑誌共近親感を抱けるのである。

地域で活動するためには、院内と違って画一的な接近では用をなさない。これ迄の狭い見識では、助言指導するのも限界がある。これからもどしどし投稿の形で、地域活動の報告を切に望みたい。そうした積重ねの出発点となるように、この号は企画され、筆者の方に執筆の労をお願いした。心からお礼を述べたい。

(鈴木 明子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部

佐 藤 馨
神奈川リハセンター

鈴木 明 子
府中リハビリ学院

谷 岡 淳
自治医科大学

寺 山 久美子
都心障センター

福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大 橋 博

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

小 林 夏 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 剛

田 原 澄 彦

富 岡 詔 子

奈 良 勲

藤 沢 しげ子

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

横 山 巖

和 才 嘉 昭
(担当 細田・西塚)